

平成25年度福島県学力調査結果から見えた

英語科の課題と今後の対策

県学力調査結果から（会津）

成 果

- ① 全国平均正答率に若干満たないものの、平成24年度に比べ、平均正答率が5.7ポイント上昇している。
- ② 「知識・理解」の定着については、大きく改善された。特に文法・慣用表現の知識・理解の項目は、平均正答率が全国平均を大きく上回った。

課 題

- ① 「条件英作文」の正答率が低い。無答率も約4割と高い。「書く」ことへの意欲も高める必要がある。
- ② 長文読解問題の正答率が低い。会話文の読み取りは、全設問で全国平均正答率を下回った。授業の中で、長文読解力を高めていく必要がある。

正答率の低かった問題（会津）

会津域内で正答率の低かった **条件英作文** **長文読解問題** について、傾向や求められる力等を確認してみます。

1 **条件英作文**

※県学力調査の問題は公表できないため、テストイングポイントが似たものを示します。

(1)

例 体調について話をしています。Bになったつもりで、下線部に語句を補い、英語で表現しなさい。

A: You look tired. Are you OK?

B: Yes, but I am very thirsty. _____ some water?

(2)

例 英語の授業で、友達を紹介する英文を書くことになりました。友達を1人取り上げて、次の指示にしたがって、英語で書きなさい。

内容につながりのある3文以上で書くこと。

最初の文で名前を紹介し、他の2文で、その友達の説明をすること。

- ◎ (1)(2)ともに、和文英訳でない。知識の定着だけでなく、既習事項を活用する力が求められる。英訳はできるが、この種の問題が苦手な生徒は多い。(1)は自由度が低い、既習事項を組み合わせ活用すること、一問一答で終わらない表現力等が求められる。(2)は、文と文のつながりを意識したまとまった英語を書く力が求められる。自由度も高い。今までも課題となっていた問題である。

2 長文読解問題

- ・概要を把握する問題
- ・必要な情報を読み取る問題
- ・長文の簡潔な要約文を、空欄を補い完成させる問題

特にこの問題は、全国平均正答率から 10p 以上も下回っています。

◎テストポイントが「読むこと」に絞られている。日頃の授業の”タスクを課した読む活動“を通し身に付いた「概要や必要な情報を読み取る力」が求められる。

今後の対策

「Can-do リスト」形式の学習到達目標などを意識した上で・・・



4 技能をバランスよく高めたり、技能を統合して活用したりする言語活動の充実を図ることはもちろんですが、生徒の実態に応じて、以下の点を参考に、継続実践できる具体策を講じていきましょう。ここでは、ベースとなることのみ記載しました。

「書く」ことの指導については 課題①

- 「言語活動で用いた表現を書く」活動を授業に継続的に位置づける。
 - ・定着を目指した書く活動、活用を意図した書く活動のバランスにも配慮する。
 - ・個々が「できた」と感じ、自信がもてるよう支援を工夫する。
 - ・生徒の関心を高める題材を取り上げたり、書く必然性を感じさせたりするよう配慮する。
 - ・既習事項を組み合わせる等の工夫をする。

- 一問一答でなく、ワンセンテンスを付け加えることを日常的に意識させる。
 - ・「話す活動」や「書く活動」において意識させる。

まとまりのある英文を書く力を育成するよい機会となりますので、とばさずしっかり取り組ませましょう。

【まとまりのある英文を書かせるために】

- 単元のまとめや教科書 USE-Write や Mini-project で、まとまりのある英文を書く時間を積極的に設定する。

※Mini-project は、統合的な言語活動が行えるように構成されています。また、書く必然性のある活動が位置づけられています。

長文読解の指導については 課題②

訳読、解説中心の指導では、概要や必要な情報を読み取る力は育成できません。

- 教科書 USE-Read を適切に活用する。
 - ・詳細は本 HP 教科の部屋 英語 で解説していますので参考にしてください。

読むこと 指導のポイント (その1)、(その2)

- USE-Read 等における Post-Reading 活動で、要約文等を扱う。
 - ・穴埋めにより要約文を完成させる等の活動から始めるとよいでしょう。それであっても、慣れるまでは難しいので、難易度を工夫しながら取り組ませるとよいでしょう。